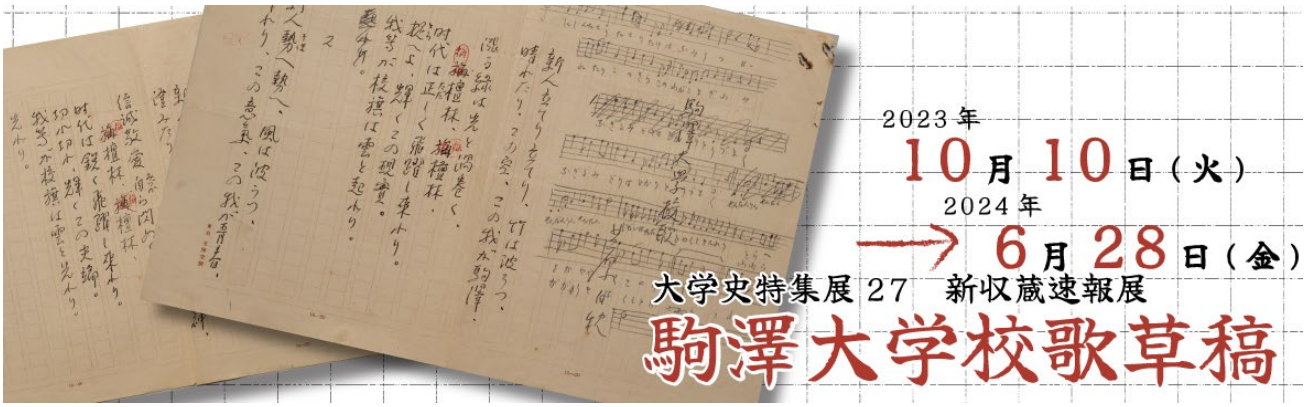


ごあいさつ

「新人立てり　立てり…」で始まる駒澤大学の校歌は、北原白秋(1885～1942)作詞・山田耕筰(1886～1965)作曲により、昭和5（1930）年に誕生しました。本学が「駒澤大学」と名称を改めてから5年後のことです。以来今日まで歌い継がれています。

このたび、北原白秋・山田耕筰の自筆による校歌草稿が新たに収蔵されました。これを記念して、改めて校歌誕生の歴史をひもといていきます。

この草稿には、現行の歌詞・譜面とは異なる部分がいくつかあります。本学校歌が現在の形になった経緯については、未解明の部分がありますが、貴重な草稿と、校歌の誕生に奔走した応援団との関わりから校歌発祥の一端をたどります。

この展示をとおして、駒澤大学校歌の歴史を知っていただければ幸いです。

駒澤大学禅文化歴史博物館

Ⅰ．新収蔵資料・駒澤大学校歌草稿

このたび新収蔵された、北原白秋・山田耕筰の直筆草稿は、昭和5(1930)年のものです。全3紙から成り、もとはホチキスで止められていました。1枚目の小紙片には、白秋から耕筰への申し送り事項が記され、たいへん貴重です。

2～3枚目の原稿用紙には、白秋による校歌の歌詞が3番までペン書きで記され、2枚目右側には、耕筰による譜面が鉛筆書きで記されています。

●申し送り事項について

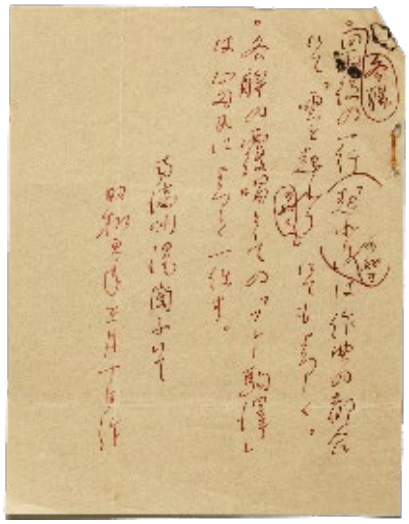
白秋はこの時、満州鉄道の招待で、満州三温泉地のひとつ湯崗子（タンガンズー・現中国遼寧省鞍山市）に滞在していました。末尾には「南満州湯崗子にて昭和五年三月十日作」と明記されています。

●歌詞について

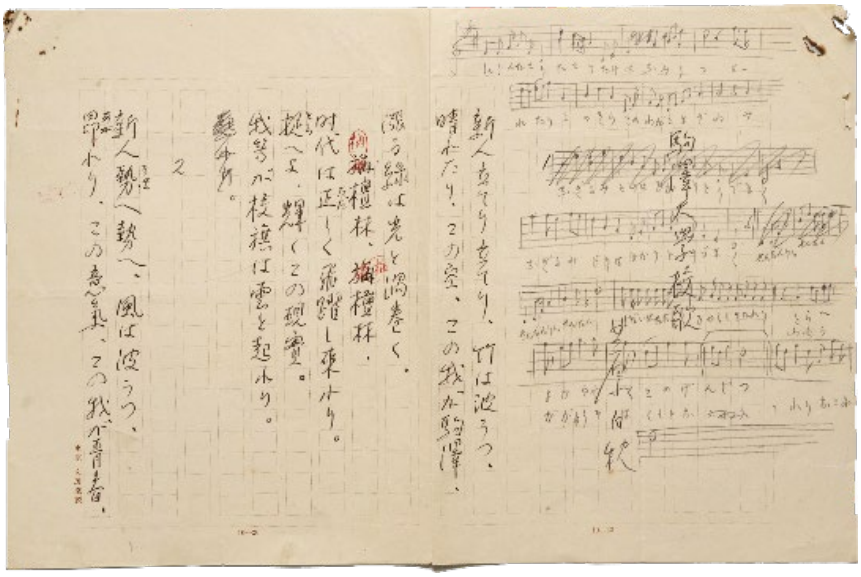
北原白秋の詞は、各番の「旃檀林(せんだんりん)」が「栴檀林」に赤字で修正されています。当初の歌詞は「栴檀林」となっています（『想苑』第二巻四号,1930 年など)。現行の歌詞では「旃檀林」ですが、正式に改訂された時期については今後の課題です。

2番(2枚目最後の行)の「昂れり」は「あがれり」とふってありますが、現行の歌詞では「おこれり」です。

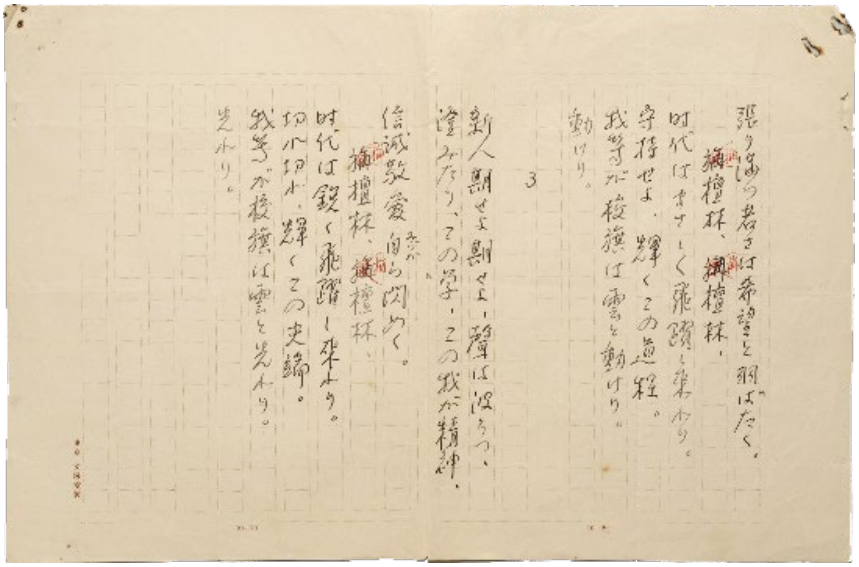
（申し送り事項の内容）
・各聯最後の一行（「起れり（の如き）」）は作曲の都合にて「雲と起れりの如く」にてもよろしく。
・各聯の覆唱としての「フレー駒澤」は山田氏によろしく一任す。
南満州湯崗子にて
昭和五年三月十日作



校歌草稿１枚目(申し送り事項)　縦 14.4 ㎝×横 11.2 ㎝



校歌草稿２枚目　縦 21.8 ㎝×横 33.2 ㎝



校歌草稿３枚目　縦 21.8 ㎝×横 33.2 ㎝

Google Arts&Culture にて
高精細画像を公開しています。

白秋から耕筰への申し送りについては、「の如き」は省略され、復唱の「フレー駒澤」は、『世界音楽全集』収録の譜面には入っていますが、現行の歌詞には入っていません。

●譜面について

山田耕筰の草稿譜面は、3段目から4段目にかけて修正箇所が見られるなど、改訂のあとが見受けられます。調は草稿ではD(ニ長調)ですが、現行の譜面ではB♭(変ロ長調)です。また音符をたどっていくと、現行の譜面とは別の曲調であることが読み取れます（株式会社クラフトーン/日本楽劇協会理事久松義恭氏の御教示)。草稿譜面ののちに、改訂を重ねて現行の譜面になったと思われますが、その経緯については現在のところ不明です。

Ⅱ．校歌の誕生～応援団と白秋～

駒澤大学の校歌は、北原白秋により南満州の湯崗子(タンガンズー)にて、昭和5(1930)年に作詞されました。白秋が校歌を作詞した背景には、本学応援団員との深い関りがありました。『応援団誌』創刊号（昭和30〈1955〉年）には、校歌誕生にまつわる貴重な記述があります。

また『応援団誌』から、校歌の誕生は、『白秋全集』の編纂と深く関わっていたこともわかります。

●校歌誕生当時の大学

大正14（1925）年3月、曹洞宗大学は専門学校から大学(旧制)に昇格し、校名を「駒澤大学」に改称しました。この結果、曹洞宗大学時代に200人であった学生数も、大学への昇格後、最大で1,300人にも達しました。

さらに、教育内容が充実し、旧本館、旧1･2号館、旧図書館などの施設の整備もすすみました。学生たちも、さまざまな部活動や学会を組織するなど、学風の高揚がみられました。

こうした中、応援団員の働きかけにより、昭和5（1930）年、北原白秋作詞・山田耕筰作曲の二大巨匠による校歌が誕生しました。

応援団誌（創刊号）　昭和30(1955)年／駒沢大学応援団本部刊／当館蔵（長野県･小松武男氏寄贈）

本資料は、応援団OBによる回想録。本誌中の「校歌ができるまで―白秋さんの十三回忌に当って―」という寄稿で、そのいきさつを回顧しています。筆者は、昭和19(1944)年に専門部仏教科を卒業した堀口英一氏です。この回顧録から校歌誕生の秘話を紹介します。

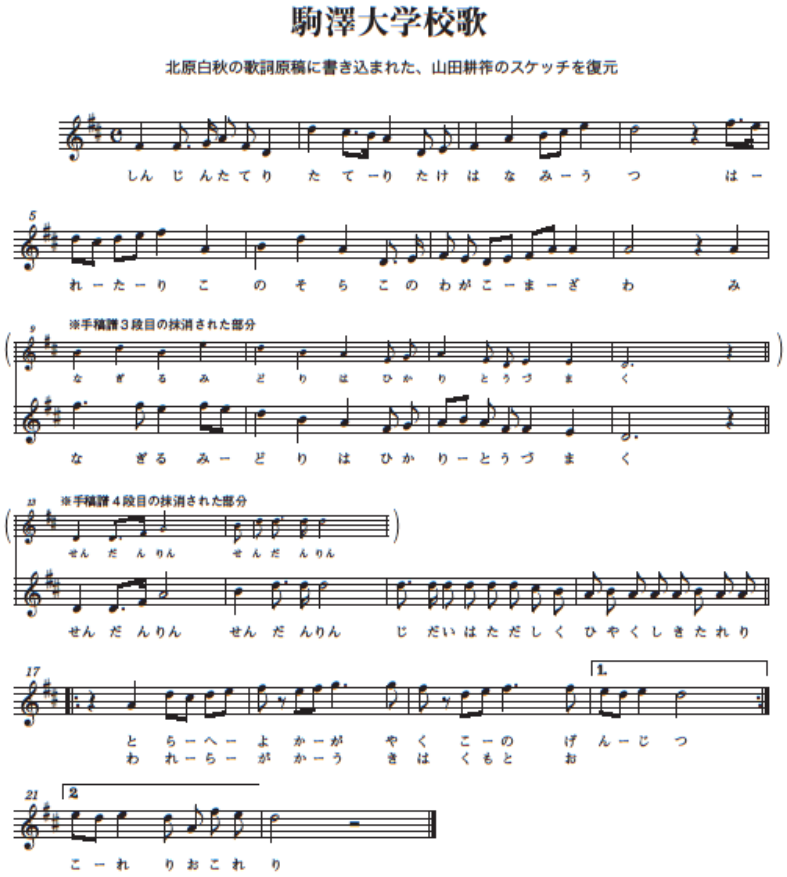
昭和4年頃、北原白秋は現在の世田谷区若林に住み、『白秋全集』の編纂を行っていました。『白秋全集』編纂を手伝っていた人物の中に、駒澤大学専門部の学生であった堀口英一氏がいました。

このころ曹洞宗大学の学生たちが、白秋邸に校歌の制作を依頼しに来ました。白秋は忙しかったため、その依頼は堀口氏から白秋に伝えられました。

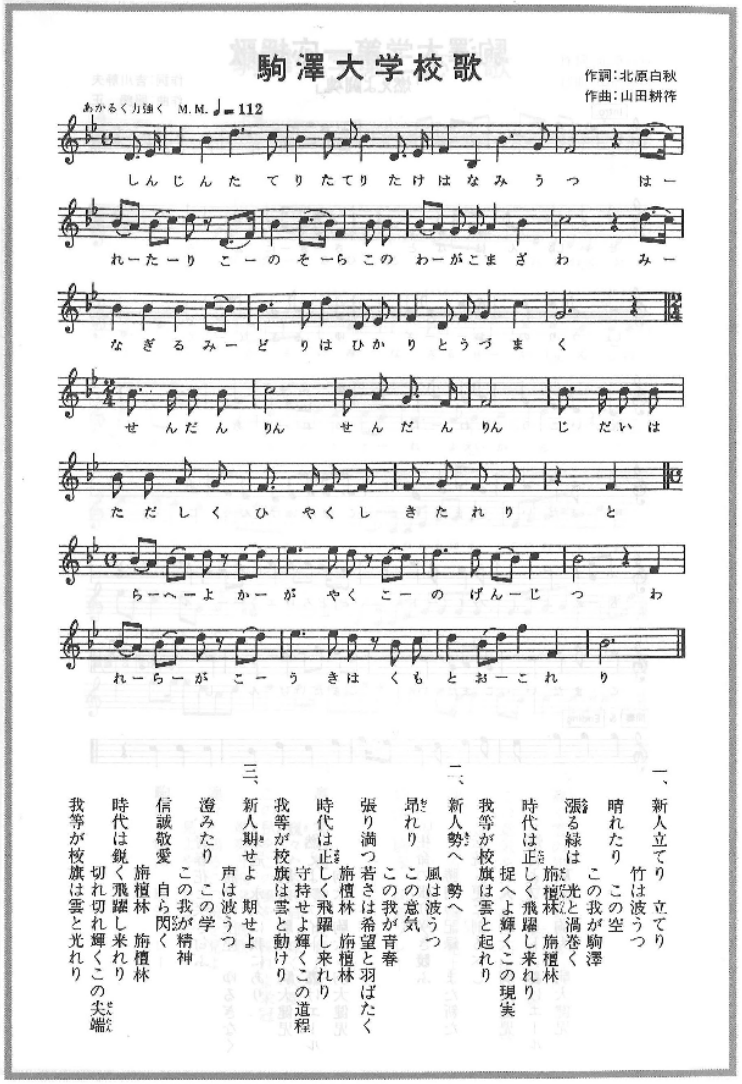
その後、北原白秋はしぶしぶ校歌の作詞をひきうけ、同年10月15日の開校記念日に駒澤大学を訪れ、酒を飲み、図書館(現禅文化歴史博物館)の屋上から駒沢キャンパスを眺めています。

この後、現在の駒沢交差点のところにあった料亭で北原氏と堀口氏は酒を酌み交わしています。この料亭は、北原白秋と歌人・若山牧水が酒宴を行った場所でもありました。

この後、校歌が誕生しました。このように校歌の誕生は、『白秋全集』編纂と深く関わっていました。



山田耕筰の草稿を復元した楽譜
楽譜浄書：久松義恭氏/一般社団法人日本楽劇協会



現在の歌詞と譜面（大学生活ハンドブック 2002）

2023.10.10 1st edition